

自立と共生！

たくましい日本！

No. 157号

民主党 中川正春の 永田町かわら版

2002年3月4日

〒100-8981 千代田区永田町2-2-1 衆議院第一議員会館 428号

TEL 03-3508-7128

FAX 03-3508-3428

○コンゴ大使、ムキシ氏が証言

コンゴのムキシ大使が、私の事務所を尋ねてきました。鈴木宗男事務所のコンゴ人秘書ムルアカ氏と対立して、マスコミにもみくちやにされる毎日に疲れたようです。「これまで、前任の大使とムルアカ氏が組んで行われて来た不正なビジネスで、コンゴと日本の関係が、どれだけ歪められてきたか。さらに、その事を鈴木議員のコントロールの下に、日本の外務省の役人や駐コンゴ日本大使などが、バックアップをしてきた事実と、そこにある不正な行為は、この際、日本の他の政治家にも理解をして欲しい。」ここ数年間のことの顛末を、一つ、一つ、噛み締めるように、目をうるませながら語ってくれました。私自身も、それを聞きながら、日本の外務省、そして、日本外交の実態が、ここまで腐っていると、情けなく、同時につづく腹がたってきました。

こうして、次々と表に出て来る異常な外務省の現実には、これまで、中にいて「これは、おかしい」と思いながら、「一人では何も出来ないから。」とか、「今の権力に刃向かって何か言えば、自分の身があぶない。」と躊躇していた人々を一気に元気づかせているようです。内部告発やら、励ましやら、沢山の手紙やメールが届いています。

3月1日に、ムキシ大使自らが、みなの前でこのことを語って欲しいと説得をしました。身の危険を感じるということもあり、はじめは躊躇していた大使が、昨日の夜、ついに決断をしてくれました。3月1日、私達の外務省プロジェクトチームの前で、証言をします。(2月28日筆)

○川口大臣から外務省疑惑調査

報告書提出。ますます大きくなる疑惑

川口大臣が、外務省の調査結果を公表しました。宗男ハウスなどを中心にした北方4島支援事業の間

曲がりなりにも、認められています。しかし、ケニアのケースは0回答。

私達は、これを受けて、さらに次の点をはっきりさせていきたいと思っています。人道支援事業で一連の業者選択をしていく過程で、外務省職員が事前に詳細にわたって、鈴木氏に伺いを立てている事が認められました。具体的な名前で業者を指名したことはなくても、入札の条件を鈴木氏が決めて、それに該当する業者が一つしかなかった。これは、鈴木氏によって、具体的な業者が指名されたのと同じ結果です。報告書では、執拗に、具体的な業者の名前は、鈴木氏からは出なかったから、外務省は無実だと言い張ってます。これこそ、役人の姑息な言い逃れ。この時の受注業者と、鈴木氏の間での政治献金やそれ以外の金の動きがはっきりしだしていますから、後は、警察が具体的に動かなければウソです。

第二に、コンゴ大使館の問題。これは、奥が深く、闇の力がはたらいています。歴代の新しい大使に対して、外務省は、外交官身分証明書を不当に発給しなかった。そして、その過程で、鈴木氏自身や、彼の秘書であるムエテ、ムエルカ氏から「発給するな。」と言われたからだということを、この報告書の中で、認めました。

しかし、コンゴ大使のムキシ氏は、もっとショッキングな証言をしています。外務省官僚は、歴代の新大使に対して、外交官身分証明書を発行する条件として、コンゴ大使館通商代表部の事業に、協力しろと、強要したと言います。この通商代表部というのが曲者で、大使の証言では、金をはじめ、その他の貴金属や宝石の密輸、また、レアメタルなどの採掘に日本企業がコンゴに進出する時、在日コンゴ大使の公印をたてに、お墨付きを金で売買していた。さらに、周辺のマスコミ情報では、これに名を連ねる日本側の企業は、闇の世界に繋がるヤクザ集団の可能性があるとというような話まで飛び出しています。在コンゴ日本大使が、向こうの外務大臣を

題、コンゴ大使館の外交官身分証明書とケニアのソンド、ミリュウ水力発電所の3点について調べています。国会で議論の出た事柄以外には、特に新しい事実はなし。北方4島とコンゴ大使館問題では、鈴木議員の強い影響力とそれに基づいて外務省官僚がいかに異常な形で、行政を捻じ曲げてきたかが

買収してでも、非協力的な大使を更迭しようとしたというムキシ氏の証言の背景が、こんなことだとすれば、その闇の深さに唾然とします。真相究明はこれからです。

中川正春